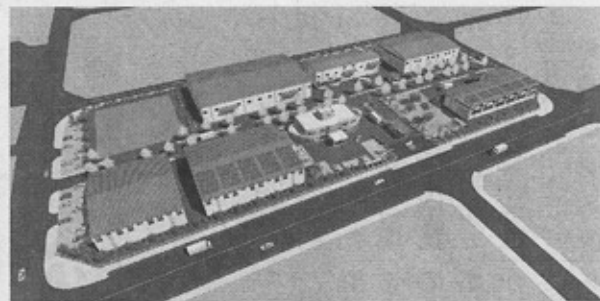


本紙3月2日号で既報のとおり、日本紙パ  
 ルプ商事と有価物回収協業組合石坂グループ  
 (熊本市、石坂孝光代表理事)は、廃プラか  
 ら古紙、木質材までにわたるマテリアルおよ  
 びサーマルリサイクルの両関連事業を総合的  
 に推進する新会社を設立、2月25日には熊本  
 県ならびに熊本市と本社工場の立地協定を締  
 結した。これを受け、7月には着工する運び  
 となった。

新会社のエコポート ループの石坂代表理事  
 九州の社長には、石坂夕 が取締役会長には日本



本社工場全量完成予想図

紙、パルプ商事の平  
 戸恭一会長がそれ  
 ぞれ就任している。  
 資本金は2億円(2  
 008年12月現在)  
 で、日本紙、パル  
 プ商事70%、石坂グ  
 ループ30%の出資  
 割合。総事業費40  
 億円を投じ、熊本  
 港の臨海用地(熊  
 本市新港、敷地面  
 積2万7866  
 平方メートル)に本社工  
 場を建設する。10  
 年4月の操業開始

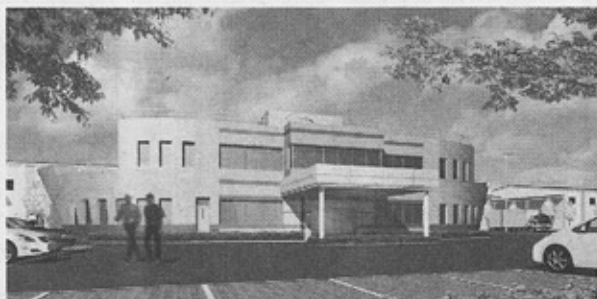
を予定している。  
 出荷額は初年度(10  
 年)で15億2600万  
 円、2年度(11年)22

## 燃料から原料化まで多様対応

日本紙パルプ商事／石坂グループ

### 新事業で循環資源総合活用へ

本社工場完成予想図



②機密文書溶解・リサ  
 イクル事業③木質原料  
 製造事業④固形燃料  
 (RPF) 製造事業  
 を柱に据え、展開する。  
 ①は、容器包装プラ  
 スチックや企業から排  
 出される事業系廃プラ  
 などと回収。光学多重  
 選別を施し素材ごとに  
 分け、破碎・洗浄。高  
 純度な再生樹脂ペレ  
 トを製造し販売する。  
 ④は、工場内各施設

②は、自主回収  
 または自治体や企  
 業から機密文書を  
 受け入れ、保管箱  
 は回収せず、その  
 ままパルパーで溶  
 解し古紙パルプを  
 製造、製紙メーカ  
 ーへ出荷してい  
 く。また、独自に  
 緩衝材として使用  
 されるクレープ紙  
 の製造設備を導  
 入、販売も行って  
 いく。

③は、風倒木や  
 間伐流木など生木類、  
 建設木くずなどを集  
 荷。破碎・圧縮、固形  
 化し木質ペレットを製  
 造する。原料としてホ  
 ードメーカーに出荷す  
 るほか、農業用ビニ  
 ルハウス等で燃料利用  
 していく計画。破碎、  
 循環資源の回収、再生  
 利用事業を広域的に展  
 開。07年11月には、九  
 州・沖縄地域の業界各  
 社とともに九州環境ネ  
 ットワークを設立。32  
 社による連携体制を構  
 築している。

億3100万円の確保  
 を目指す。  
 事業は、①廃プラス  
 チックマテリアル事業